2019-2020年度 JCLAM専門医認定審査・専門医資格更新案内

**1) 対象者**

**○専門医の認定試験を初めて受けられる方：**

新規の審査申請は日本実験動物医学会（JALAM）の会員歴が3年以上［2017年7月末日（2016-17年度）までに会員になり、2018-19年度分まで会費を納めていること］であり、JCLAM認定規則（<http://plaza.umin.ac.jp/~jclam/_AAAAAA_/ja/pg779.html>）の別表1に規定された基準を満たしている方が対象となります。会員歴の年数は各年度で計算します。

会員歴及びJALAM会費（2016-2017年度まで2,000円/年、2017-2018年度から3,000円/年）の支払状況が分からない場合は、JALAMの会員ページ（ <https://jalam.jp/htdocs/> ）の会員情報で、「会費収入状況」を確認可能です。確認は、会員ページにログインして頂き、「管理」メニューから表示されるご自身の会員情報をご覧ください。「会費納入状況」として、2010年度以降の納入日をご覧いただけます。具体的な操作方法は、<https://jalam.jp/htdocs/?page_id=594>に掲載されています。

この期間もしくはそれ以前にJALAM会員になった方

|  |  |
| --- | --- |
| **会計年度** | **会計年度の期間** |
| 2014-2015年度 | 2014年8月1日～2015年7月31日 |
| 2015-2016年度 | 2015年8月1日～2016年7月31日 |
| 2016-2017年度 | 2016年8月1日～2017年7月31日 |
| 2017-2018年度 | 2017年8月1日～2018年7月31日 |
| 2018-2019年度 | 2018年8月1日～2019年7月31日 |

**○専門医認定資格の更新をされる方：**

今年度は1999年度、2009年度および2014-2015年度に認定された専門医の方が対象となります。

|  |  |
| --- | --- |
| 1999年度認定 | 認定番号第035、037、039（3名） |
| 2009年度認定 | 認定番号第076～083（8名） |
| 2014-2015年度認定 | 認定番号第121～130（10名） |

**2) スケジュール**

**〇 新規認定審査日程**

審査申請書受付開始 2019年4月8日（月）

審査申請書受付締め切り 2019年5月31日（金）

資格審査結果通知 2019年8月1日（木）

筆記試験 2019年9月9日（月）日本獣医学会（つくば）

合格発表 2019年11月8日（金）

認定料振込期限 2019年11月14日（木）

認定日 2019年12月25日（水）

**〇 更新認定審査日程**（筆記試験を受験しない場合）

審査申請書受付開始 2019年4月8日（月）

審査申請書受付締め切り 2019年5月31日（金）

資格審査結果通知 2019年8月1日（木）

認定料振込期限 2019年10月31日（木）

認定日 2019年12月25日（水）

**〇 更新認定審査日程（筆記試験を受験する場合）**

新規認定審査日程と同じ

**3) 審査申請書の請求、申請、審査料及び試験受験料の振込**

**〇 審査申請書の請求について**

下記URLにアクセスし、審査申請に必要な書類を**ご自身でダウンロード**してください。

<https://jclam.jp/?page_id=282>

・専門医の認定試験を**初めて**受けられる方は**必ず「新規申請」**からダウンロードすること。

・専門医認定資格の**更新**をされる方は**必ず「更新申請」**からダウンロードすること。

**毎年必ず間違える方がいます。ご注意ください。**

**〇 審査申請書の申請について**

審査申請書に必要事項を入力／記入し、必要な書類を添えて電子ファイル化(pdfファイル、wordファイルなど)して下記URLにアクセスし、**2019年5月31日（金）までにアップロード**してください。なお、申請書を請求されたときに送付されたメールにも記載されています。

<https://jclam.jp/?page_id=290>

・専門医の認定試験を**初めて**受けられる方は**必ず「新規認定申請のページ」**へアップロードすること。

・専門医認定資格の**更新**をされる方は**必ず「更新認定申請のページ」**へアップロードすること。

**毎年必ず間違える方がいます。ご注意ください。**

★**申請書類アップロード時の注意事項**

・業績の記録はすべて載せる必要はなく、**申請単位（＋α）程度でよい**ので、必要書類のファイルは**2MBまで**にまとめてください。

・投稿論文は**書誌事項がわかる部分だけ**で結構です。

・JALAM、JCLAM主催シンポジウム等への参加、ウェットハンド研修への参加の状況は下記方法で確認してください。

① 日本実験動物医学会の会員ページ(https://jalam.jp/htdocs/)にアクセスするとページの右上に小さく「ログイン」のボタンがありますのでそれを押下してログインする。

② ログイン後のページの左側にある「JALAM全会員のページ（2016-）」を選択した後「JCLAMから」を選択する。

③「シンポジウム等参加者記録」のボックスの中の「参加したJALAM会員氏名」の右側（少し離れています）にある検索キーを押下した後、「キーワード」の欄にご自分の名前（姓と名の間にスペースを入れてください）で検索する。

**〇 審査料および試験受験料の振込**

審査料および試験受験料の振込は下記までお願いいたします。

・専門医の認定試験を**初めて**受けられる方はは審査料10,000円+試験受験料10,000円の**合計20,000円**、ただし、前年度もしくは前々年度、資格審査に合格している場合は試験受験料のみの10,000円）となります。

・専門医認定資格の**更新**をされる方は審査料のみの**10,000円**、ただし、認定試験を受験する場合は審査料10,000円+試験受験料10,000円の**合計20,000円**となります。

☆郵便局（ゆうちょ銀行）から振替の場合：

・金融機関：ゆうちょ銀行

・口座番号：00110-2-418235

・加入者名：日本実験動物医学専門医協会

☆他金融機関からの振込口座：

・金融機関：ゆうちょ銀行

・店名：〇一八（読み ゼロイチハチ）

・店番：018

・預金種目：普通預金

・口座番号：9227470

**★審査料及び試験受験料の振込の注意事項**

JCLAMの審査料等の振込先に**JALAMの年会費を振り込まない**ように注意してください。

**4)問い合わせ先**

不明な点がある場合はJCLAM総務部（Secretary\_JCLAM@umin.ac.jp）まで問い合わせください。

2019-2020年度JCLAM試験問題作成委員会参考図書等一覧

　この参考図書一覧は実験動物医学領域において標準的な教科書・資料として推奨されるものを2014および2015年度試験問題作成委員会がまとめ、それに毎年改訂を加え、比較的高い頻度で参考にされる基本図書あるいはその最新版を示したものです。委員会は2019年度の問題作成において本一覧に示した参考図書等を出典として利用する予定です。なお、この一覧が出典のすべてではなく，ここに示されていない図書等からも出題されますことご留意ください。(2019年1月　試験問題作成委員会)

1．図書（名称順）

1) Anesthesia and Analgesia in Laboratory Animals. (2nd Ed.) Fishら. Academic Press. 2008. (ISBN:0123738981)

2) Laboratory Animal Anaesthesia. (4th Ed.) Flecknell. Academic Press. 2016. (ISBN: 0128000366)

3) Laboratory Animal Medicine. (3rd Ed.) Foxら. Academic Press. 2015. (ISBN ：0124095275)

4) Management of Animal Care and Use Programs in Research, Education, and Training. (2nd Ed.) Weichbrodら. CRC Press. 2017. (ISBN: 1498748445)

5) Manipulating the Mouse Embryo: A Laboratory Manual. (4th Ed.) Behringerら、 Cold Spring Harbor Laboratory. 2013. (ISBN: 1936113019)

6) Nonhuman Primates in Biomedical Research. Abeeら. Academic Press. 2012. (ISBN:0124158337)

7) The Laboratory Mouse. (2nd Ed.) Dannemanら. CRC Press. 2012. (ISBN:1439854211)

8) The Laboratory Rat. (2nd Ed.) Sharpら. CRC Press. 2012. (ISBN:1439829868)

9) The Clinical Chemistry of Laboratory Animals. (3rd Ed.) Kurtzら. CRC Press. 2017. (ISBN: 1420091137)

10) アニマルマネジメント―動物管理・実験技術と最新ガイドラインの運用.笠井一宏ら.アドスリー. 2007. (ISBN:4900659810)

11) アニマルマネジメント(2)―管理者のための動物福祉実践マニュアル. 増補改訂版. 笠井一宏ら.アドスリー. 2018. (ISBN:4904419793)

12) 実験動物学 2版. 久和茂. 朝倉書店. 2018. (ISBN:4254460368)

13) 実験動物の技術と応用.（実践編）日本実験動物協会編. アドスリー. 2014. (ISBN:4900659452)

14) 実験動物の原理. 笠井憲雪ら監訳. 学窓社. 2011. (ISBN:4873627120)

15) 実験動物の感染症と微生物モニタリング. 日本実験動物協会編. アドスリー. 2015 (ISBN:4904419564)

16) 獣医遺伝育種学. 国枝哲夫ら. 朝倉書店. 2014. (ISBN:4254460339)

17) 獣医解剖・組織・発生学.日本獣医解剖学会. 学窓社. 2012. (ISBN:4873627199)

18) 獣医生化学．横田博ら編．朝倉書店．2016. (ISBN: 4254460353)

19) 獣医微生物学（第4版）. 関崎勉ら. 文永堂. 2018. (ISBN:4830032707)

20) 新毒性病理組織学. 日本毒性病理学会編. 西村書店. 2017. (ISBN: 4890134717)

21) 人道的な実験技術の原理　－動物実験技術の基本原理3Rの原点－. 笠井憲雪訳. アドスリー. 2012. (ISBN: 4904419304)

22) 動物実験における人道的エンドポイント. 中井伸子. アドスリー. 2006. (ISBN:4900659667)

23) 動物実験委員会ガイドブック.日本実験動物協会編.アドスリー. 2012. (ISBN:4904419403)

24) 動物の感染症. (第4版) 明石 博臣ら. 近代出版. 2019. (ISBN: 4874022504)

25) 動物病理学総論. (第3版) 日本獣医病理専門家協会編. 文永堂. 2013. (ISBN: 4830032455)

26) 動物病理学各論.(第2版) 日本獣医病理学専門家協会編. 文永堂. 2015. (ISBN: 4830032561)

27) 標準生理学. (第8版) 福田康一郎監修. 医学書院. 2014. (ISBN: 4260017810)

28) 哺乳動物の発生工学.　佐藤英明ら. 朝倉書店. 2014. (ISBN:4254450293)

29) マウス実験の基礎知識. (第2版) 小出剛ら. オーム社. 2012. (ISBN:4274504570)

2．雑誌（名称順）

1) Experimental Animals.（実験動物ニュースを含む） 日本実験動物学会.

2) The Journal of Veterinary Medical Science. 日本獣医学会.

3．法令指針等

（1）日本国内（名称順）

1) 遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律（財務・文部科学・厚生労働・農林水産・経済産業・環境の各省）

2) 家畜伝染病予防法（農林水産省）

3) 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（厚生労働省）

4) 研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針（文部科学省，ならびに厚生労働省，農林水産省から同様に示された指針）

5) 実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準（環境省）

6) 実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準の解説. 環境省自然環境局総務課動物愛護管理室編. アドスリー. 2017. (ISBN: 4904419724; <https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/2_data/pamph/h2911.html>)

7) 動物実験の適正な実施に向けたガイドライン（日本学術会議）

8) 動物の愛護及び管理に関する法律（環境省）

9) 特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（環境省）

10) 麻薬及び向精神薬取締法（厚生労働省）

11) 狂犬病予防法（厚生労働省）

（2）国際・海外（名称順）

1) AVMA Guidelines for the Euthanasia of Animals. AVMA. 2013. (https://www.avma.org/KB/Policies/Documents/euthanasia.pdf)

2) A Good Practice Guide to the Administration of Substances and Removal of Blood, including Route and Volumes. EFPIA/ECVAM. 2000. (J. Appl. Toxicol. 2001 21(1):15-23.)

3) Guidelines for Nomenclature of Genes, Genetic Markers, Alleles, and Mutations in Mouse and Rat. International Committee on Standardized Genetic Nomenclature for Mice. 2011. (http://www.informatics.jax.org/mgihome/nomen/gene.shtml)

4) Guidelines for Nomenclature of Mouse and Rat Strains. International Committee on Standardized Genetic Nomenclature for Mice. 2011. (http://www.informatics.jax.org/mgihome/nomen/strains.shtml)

5) 実験動物の管理と使用に関する指針　第8版 （原著：Guide for the Care and Use of Laboratory Animals）. 鍵山直子ら. アドスリー. 2011. (ISBN:4904419236)

6) 実験動物の管理と使用に関する労働安全衛生指針. 黒澤努ら. アドスリー. 2002. (ISBN:4900659363)